

生活彩々

マルシェ まちなか産直市 活気

新鮮な野菜や果物が並ぶ産直市。生産者が産物を都市部に運んで、消費者と直接つながる。フランスの「マルシェ」のような都市型の産直市が全国的に広がっている。県内の特色ある交流拠点を紹介する。



農家の知恵伝授

土曜の朝 JR掛川駅を目抜き通りに軽トラックが続々と乗り入れる。荷台には野菜や苗、加工品や絵葉。豊富な品物を積んだ荷台はそのままだ、店の陳列棚になる。生産者が軽トラックで物産を販売する「軽トラ市」が全国的に広がりを見せている。掛川市では、方言を使って「けつトラ市」と呼ぶ。

掛川 けつトラ市

周知では、生産者と消費者が話の花を咲かせる。実行委員会によると、毎月3000人ほどが来場する。JA掛川市倉真支所朝市グループは採れたての野菜に加えて、きゅうりの漬物やゴーヤのつくいだ煮も販売した。「普段は近所にお裾分けしている野菜や加工品を持ってきた」

と松浦幸枝代表(60)。レシピを配り、野菜をうまく保存する農家の知恵を直接伝える。開催は毎月第3土曜日。出店者は3回続けて、同じ場所で店を開く。おなじみさん

生産者と消費者つなぐ

「ナイトマーケット」は、て、近くの店から食べ物を商店街に机と椅子を用意し テークアウト。商店街の19

沼津 ナイトマーケット 緩やかな空間

産直市といえは日中のイメージだが夕涼み感覚で開かれるマーケットもある。沼津市あびつち商店街



店舗が、カレーや天ぷら、カクテルなどを用意する。商店街で地場野菜を売る店「REFS(レフス)」を営む小松浩二さん(31)が始めた。「最初は仲間うち15人くらいの企画だった」が、口コミで広がった。アコーディオンやスパニッシュギター演奏など、路上の空間は回を追うごとに多彩になる。

「マーケットは、情報が集まる場所。魅力的なものが集まれば発信力も増して人も集う」と小松さん。近隣にあるオフィスから仕事帰りの会社員も立ち寄って、店主と交流を深める。商店街からテークアウトした食べ物を持って夕涼み。ギター演奏やハンモックが緩やかな空間をつくるナイトマーケット―沼津市

【紹介した市場、マーケットの9月開催予定と連絡先】

けつトラ市=17日午前9時~正午、掛川市都市整備課 中心市街地活性化推進室内「けつトラ市」実行委<電0537(24)1162>▽沼津ナイトマーケット=29日を予定、REFS<電055(963)4556>▽山の朝市=11日午前9時半~午後3時、サリーズガーデン<電054(262)1228>



東京で開かれているマルシェ「マルシェ・ジャポン」の様子

野菜や加工品を軽トラックの荷台に並べる。やや低めの荷台は販売にちょうど良い―掛川市

メモ 中心市街地や商店街に生産者が出向く産直市は、県内各地でにぎわいを見せる。静岡市葵区の小橋神社では今年1月から、農家の作物や加工品を中心に販売する「サンデーサニーマルシェ」と、雑貨やリサイクル服なども扱う「サンデーサニーマーケット」を毎月交互に行っている。浜松市の砂山銀座・サザンクロス商店街では、全国、県内でも拡大2001年から続くサザンクロス朝市などがある。全国的には、大都市圏を中心に産直市場を開く「マルシェ・ジャポン」を運営する企業や団体が、NPO法人「都市型市場を通じた未来づくり」を考える全国会議」を設立した。12の企業、団体が集い、マルシェの普及を図っている。